

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-12-09

機密送第三号

(発行年 / Year)

1910

秘

秘
檢察送付三三

明治三十九年法律第八十九號民法第一條 二編
及第三條ノ施行ニ際ニ從來ノ法律及憲法ハ十六
條ノ規定ニ依リ遵由ノ効力ヲ有スル法令ヲ變更シ
スル條項ニ付改メ、御通報可致旨御照會ヲ紙領示
差當リ心付改事項別紙ニ記載致シ後此地ニ至心付
改廉有又其ハ、更ニ法通報可致性也

明治三十九年五月十七日

外務大臣伯爵大隈重信

法部調査會副總裁清田奎吉殿

民法第二條ニ依ルハ外國人ハ條約又ハ法令ニ禁止アル場合ハ外
私權ヲ享有スルガ故ニ民法ヲ實施スルト同時ニ外國人ニ禁止スルキ
私權ハ條約又ハ法令ヲ以テ之ヲ規定セザルヘカラス然ルニ從來法令
ハ外國人ニ禁止スルキ私權ヲ必ズモ明言セズ且ツ從來條約條約ノ精
神ニ依ルハ外國人ノ享有スルコトヲ得ヘキ私權ハ一々條約ヲ以テ之ヲ
規定シ條約上ニ認許セザル私權ハ即チ外國人ノ享有スルコトヲ得サ
ルモノトセリ現今外國人ノ帝國臣民ト同レク商事會社^{（店舎ノ等）}ヲ設立スルノ
法令無ク且ツ條約上特ニ之ヲ禁止スルハ明文無キニモ拘ラス外國人
カ此等ノ私權ヲ享有スルコトヲ得サル所以ハ唯タ條約上之ヲ認許ス
ルノ明文無キカ爲メナリ而シテ現行條約ニ於テ外國人ニ認許セル私權
ノ範圍ハ獨ル決少ニシテ或ハ敢テ之ヲ禁止スルノ必要無キ私權ヲ
モ尚ホ認許セザルモノ無キニモ非スト雖モ領事裁判權ノ利
益ヲ享有スル限ハ現行條約ノ私權ヲ享有ノ制限ヲ繼續スルヲ得ス

故ニ前正條約ヲ實施シ法權ヲ回復シタル曉ニ於テハ臣民等才ニ於テ
精神ニ侵セ外國人ハ條約ニ認許セザル私權ニテモ苟モ法令ニ禁止
セザル限ハ帝國臣民ト同レク之ヲ享有スルコトヲ得ヘシト解釋スル
ヲ以テ正當トスト雖モ民法實施ノ期日ヨリ新條約實施ノ期日ニ
至ルマテ一ケ年内外ノ期間ハ依然現行條約ノ制限ヲ維持スル
ニ非スニハ一方ニ於テ領事裁判權ノ利益ヲ有スルニモ拘ラス他方ニ於テ
現行條約ノ認許セザル私權ヲ享有スルニ至ルノ必要無シトセザルナリ
要シテ然ラハ民法ノ施行法ヲ制定スルニ當リ新旧條約ト民法第二
條トヲ調和スルキ經過的規定ヲ設ケザルヘカラス而シテ之ヲ調和スル
ノ方法ハ一ニシテ定ラザルヘシト雖モ改正條約ノ實施期日ニ至ルマデ
民法第二條ヲ實施セザルコトヲ規定シ茲クハ條約ニ規定セザル
私權ハ即チ民法第二條ニ所謂條約ニ禁止セル私權ナルコトヲ規
定スルヲ以テ之ヲ當ナリト思考ス